

事項八 四洮鐵道鄭白支線ニ閥スル件

二九七 二月十七日 島正金銀行借款課長ヨリ
芳沢亞細亞局長宛

四洮鐵道事務改善ニ閥スル交通部訓令ノ件

附屬書 在北京小田切正金取締役ヨリ梶原正金頭取宛頭
第十／三十三号信写
右交通部訓令内容

第一七二号 大正十年二月十七日

横浜正金銀行

頭取席借款課長 島 芳蔵（印）

外務省亞細亞局長 芳沢 謙吉殿

拝 啓

頭書之件ニ関シ北京小田切取締役ヨリ本月七日付ヲ以テ別紙ノ通リ報告致越候間茲許拝送供貴覽候 敬具

（附屬書）

在北京小田切正金取締役ヨリ梶原正金頭取宛報告写

四洮鐵道事務取扱方改善ニ閥スル交通部訓令ノ件

大正十年二月七日

頭第十／三十三号 於北京支店

取締役 小田切 万寿之助

本店 頭取 梶原 仲治殿

頭取 梶原 仲治殿

交通部ハ部内検査人ノ報告ニ基キ四洮鐵道事務取扱上

- 一、現金準備
- 二、為替相場切換ノ標準
- 三、短期借款記帳方法
- 四、購入材料記帳法
- 五、材料整理科目及現金收支
- 六、領収書ノ整理
- 七、支那ニ於テスル材料ノ購入ハ銀元ヲ以テスル事
- 八、入札方法ノ採用
- 九、路基改良

十、枕木改善

等ノ十項ニ亘り要点ヲ指示シテ之ガ改善整理方ヲ同鐵道局長ニ対シ訓令致候ニ付右ニ閥スル交通部訓令第二三七号所載政府公報切抜一部茲許御参考迄ニ供貴覽候 敬具

写、倫、紐、上、天、漢、大、開、頭取席（四）

註 右政府公報切抜省略

二九八 二月二十四日 野村満鉄社長ヨリ
内田外務大臣宛

鄭白線敷設資金ヲ満鉄ヨリ融資許可方申請ノ件

附 記一 大正九年十二月二十三日附野村満鉄社長ヨリ

内田外務大臣宛東庶第七八四号信写

鄭白線敷設工事費ノ起債及工事著手ニ付許可

申請ノ件

二 大正九年十二月二十八日附岡部亞細亞局第二

課長ヨリ満鉄東京支社野田俊作宛書翰

四洮鐵道延長工事及該資金募集ニ閥スル件

（別 紙）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

東庶第六七号

大正九年十二月二十三日附文書ヲ以テ御允諾相願候四洮鐵

路白音太来線延長ノ件ニ関シテハ本年早々内地市場ニ於テ

公債ヲ募集シ其資金ニ充ツル予定ニ有之候処日本銀行總裁

其他銀行當局者ハ此際四洮鐵路公債ノ發行ハ四國借款團ト

ノ關係上暫ク延期スルヲ妥当トスル旨ノ意見ニ有之自然同

公債發行ノ商議モ一ト先ソ打切りト相成リタル次第ニ御座

候然ル處弊社ニ於テハ社債募集ノ結果幾分資金ノ余裕ヲ生シ当分ノ間同鐵路ニ融通致シ得ル見込ニ有之一方延長工事所要額亦慎重査定ノ結果現金三百五十一萬四千円ニ切詰メ

得ルコトヲ確知致候ニ付此際弊社ヨリ同鐵路ニ對シ一時右所要工事費ヲ融通シ置キ以テ工事ノ速成ヲ図ラシムルコト對外的ニモ甚々好都合カト被存候就テハ右方針ノ下ニ同鐵路ヲシテ予メ材料ヲ整備シ置キ工事季節ノ來著ヲ待チ直ニ起工致サシメ度別紙所要資金明細書相添ヘ此段更ニ御允諾奉願也

大正十年二月二十四日

南滿洲鐵道株式会社

社長 野村 竜太郎（印）

（別 紙）

鄭白線延長資金明細書（大正十年二月二十三日調）

遼河及曲家店ノ橋梁改築ヲ見合セトシテ鄭白線ノ完成ヲ急クコトトシ大正十年末迄ニ所要ノ資金左ノ如シ

一、四鄭間營業不足補助金

五一四、〇〇〇円

二、鄭白間工事費

三、〇〇〇、〇〇〇

計

四、六四九、〇〇〇

右ノ内軌条ハ公社ヨリ譲渡ストスレハ

差引現金所要額 三、五一四、〇〇〇

(附記一)

大正九年十二月二十三日附野村滿鉄社長ヨリ内田外務大臣宛東
庶第七七八四号写

鄭白線敷設工事費ノ起債及工事着手ニ付許可申請ノ件

東庶第七七八四号

(十二月二十三日接受)

先般弊社松本理事ヲ以テ貴省岡部書記官殿迄口頭内申為致
候四洮鐵道線路延長工事及該資金募集ノ件ハ小職ヨリモ閣
下へ申述候通リ四洮当局ヨリノ懇請ノ次第モ有之來年早々
内地市場ニ於テ公債ヲ募集シ直ニ起工致度目下大蔵省御當
局、日本銀行總裁及横浜正金銀行頭取ト其時期、金額、條
件等ニ就キ内談致居候ニ付曩ニ差上候四洮鐵道四鄭間資金
ト營業状態及茲許添付仕候四洮鐵道資金概略等御参照相願
ヒ右資金募集及線路延長工事着手ニ付予メ御允諾奉願候

大正九年十二月二十三日

南滿洲鐵道株式会社

社長 野村 竜太郎 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

(別紙)

四洮鐵道資金概略 (大正九年十一月末現在)
一、借款現存額四鄭鐵道借款 五、〇〇〇、〇〇〇円〇〇 公債募集
四鄭鐵道短期借款 一、六〇〇、〇〇〇、〇〇 正金銀行
四洮鐵道短期借款 六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇 満鉄ヨリ
借用

合計 一二、六〇〇、〇〇〇、〇〇

二、借款使途明細表

公債發行差額及手数料 九五〇、〇〇〇、〇〇

四鄭間資金合計 七、六〇〇、〇〇〇、〇〇

北京政府費消額 三、八六三、五〇〇、〇〇

同上利息 二一四、〇四一、〇〇

四洮短期借款借入差額 七五、〇〇〇、〇〇

鄭白線測量費材料費及建築費

手持現金残額 四四七、四五九、〇〇

鄭白間資金合計 五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇

備考

四鄭間營業収入純益金ハ資金利息支払ニ充て殆ト過

不足ナシ鄭白間資金合計ト四洮短期借款トノ差額百万

円ハ四鄭短期借款二百六十万円ノ内払金ニ充てタリ

三、借款条件

A 四鄭鐵道借款 (大正五年五月一日公債発行)

募集額面 五、〇〇〇、〇〇〇円

利 率 年五歩

期 限 十年据置三十年間ニ償還

売出シ価格 百円ニ付八十六円五十銭 (実際ハ二、三

円低シ)

発行手数料 五歩五厘

正味手取額 四、〇五〇、〇〇〇円

利 廉 リ 発行者ニ取リ平均七歩弱

B 四鄭鐵道短期借款

金二百六十万円ヲ大正七年二月十八日正金銀行ヨリ七歩

ニテ借入レ大正八年二月十八日期限ヲ九ヶ月間延長シ同
年十一月十八日其内百万円ヲ償還シ利率ヲ八歩ニ改メ一
ヶ年延期シ最近九年十一月十八日更ニ利率ヲ九歩ニ改メ

(附記二)

大正九年十二月二十八日附岡部亞細亞局第二課長ヨリ満鉄東京
支社野田俊作宛書翰

四洮鐵道線路延長工事及該資金募集ニ闊スル件

機密扱

括啓陳者四洮鐵道線路延長工事及該資金募集方ノ件ニ闊シ
本月二十三日付東庶第七七八四号ヲ以テ野村貴社長ヨリ内田

大臣宛願出ノ次第有之候處本件ニ就テハ曩ニ野村社長東京

出發前井上日銀總裁トノ間ニ打合ヲ遂ゲラレ當分見合ノコトト相成候哉ニ承知致居リ候ニ付右願出ハ何等カノ行違カトモ被存尚井上總裁ニ於テモ該打合ノ頗末ハ直接貴下ニ説明可被致旨小官ニ談話ノ次第モ有之旁一応同總裁ニ御面会ノ上委曲御聽取相成様致度前記野村社長来翰ニ対シテハ這辺ノ經緯分明スル迄暫ク回答ヲ發セラレザル筈ニ有之候間右様御了知相成度此段得貴意候 敬具

二九九 二月二十八日

内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛（電報）

満鉄ノ融資ニ依ル鄭白線敷設ニ閑シ意見問合

ノ件

附記 鄭白線敷設問題ノ前年來ノ経過調書

第九八号
満鉄ニ於テハ其經營上鄭家屯白音太來支線敷設工事ノ速成ヲ図リ度希望ヲ有シ同社ニ於テ社債募集ノ結果幾分資金ノ余裕ヲ生シタルニ付差当リ四洮鐵路契約ニ基ク公債ノ募集ニ依ラズ所要工事費（約三百五十万円）ヲ融通シ得ベキ見込ナル由ニ一般政府ノ認許ヲ求メ來レル處客年五月梶原「ラモント」協定ニ當リ當時ノ交換文書ニハ鄭家屯洮南間

「四洮鐵道ハ已ニ支那側ニ於テ公然ノモノトシテ取扱居リ現ニ最近政府公報ヲ以テ同鐵道事務取扱改善ニ閑スル弁法ヲ發表シ居レリ旁々此ノ際本案ノ如キ氣兼ノ要モナカルベキヤニ思考ス（木邨印）」
(附記)

鄭白支線敷設問題ノ前年來ノ経過（岡部亞細亞局第一課長調）

南滿鐵道会社ニ於テハ財界資金潤沢ナル此際曩ニ成立シタル四洮鐵道契約ニ依ル公債三千万円ヲ募集シ其中ヨリ先ツ四鄭鐵道ノ短期借款百六十万円及四洮鐵道前渡金六百万円ヲ控除シ其ノ残余ヲ以テ鄭家屯白音太拉間ノ鐵道敷設ニ充ツル計画ヲ立テタルガ右工事着手ニ就キ予メ外務省ノ意向承知シタキ趣ヲ以テ大正九年十一月末滿鉄松本理事來省別（註）紙「鄭白線營業予算」及「鄭白線收支予想概数」及公債募集二案ヲ提出シ尙本件公債募集ニ閑シテハ井上日本銀行總裁ニ於テモ同情ヲ有シ大正十年一月頃ハ公債募集ニ最モ適當ナル時期ナルヘキ旨ヲ語ラレタル趣ヲ述ヘタリ

右工事着手ニ關シ外務省トシテ最モ考慮ヲ要スルハ新借款團トノ關係ニシテ右ニ關シ第一課トモ協議シ一応研究ノ結果別紙説明書ノ通り新借款團ノ了解ヲ求ムルコト可然トノコトニ決シタルヲ以テ正金小田切、武内両氏ノ來省ヲ求メ

本線ヲ掲記シタルニ止マリ白音太來支線ニ付テハ何等明記無キ行懸上本件支線ノ敷設ニ付テハ或ハ借款團ノ問題トナルコト無キヲ難保モ元來同支線ハ四洮鐵道本線ト不可分ノモノトモ謂フベク從テ他日借款團ノ問題トナルコトアルモ充分弁明ノ余地アルノミナラズ殊ニ今回ハ上記ノ通り公債ノ發行ニ依ラザル次第ニモ有之旁々満鉄ノ申請ヲ認許シ差支無カルベシトハ思考スルモ御承知ノ通り本件借款契約ノ成立ニ就テハ多少ノ經緯ヲ有シ當時契約ノ実行ハ山東問題ノ解決後トシ夫レ迄ハ双方契約ノ成立ヲモ極秘ニ付スルコトスベキ了解アリ從テ此際之カ實行ノ歩ヲ進ムルトキハ或ハ支那民論ヲ激成シ他日國会開設ノ際ハ更ニ問題ヲ惹起シ事態ヲ紛糾セシムルガ如キ虞無シトセズト雖モ満鉄側ノ觀測ニ依レバ交通部ハ既ニ四洮鐵路局ニ百數十名ノ技術者ヲ押付ケタル程ニテ本線工事ニハ無論異存無キ筈ナリトノコトナルモ尚此際本件起工ニ閑スル貴官ノ御意見一応承知致度ニ付委曲電報アリタシ
右奉天總領事ニ轉電シ同官ノ意見ヲ電報スル様申添ヘラレタシ
(欄外註記)

準ジテ相当有利ナル条件ニ改メテ募集スル方得策ナルベク

孰レニスルモ此際本件公債募集ハ不贊成ナレドモ滿鉄ガ手

許ニ在ル金ヲ融通シテ工事ヲ進ムルハ異存ナキ旨ヲ述べ

レタリ依テ本官ヨリ滿鉄野田氏ニ対シ十二月二十八日附ヲ

以テ一応事情確メノ為メ照会ヲ為シ其後滿鉄ヨリハ何分ノ

回答アルコト期待シ居ル次第ナルガ野田氏ノ内話ニ依レ

バ交通部ハ四洮鐵路局ニ百五十人許リノ技術者ヲ押付ケ本

線工事ニハ異存ナキ筈ニテ又滿鉄トシテモ何レニカ発展セ

ザルヲ得ザル状況ニ在ルニ付当分公債ノ募集ハ之ヲ見合セ

唯同社限リニテ融通シ得ル範囲ニテ工事ヲ徐々ニ起シ本年

ハ先ツ四百万円位ヲ出資スル考ニテ且下計画進行中ナル趣

ナルニ依リ本官ハ以上ノ計画ヲ一応書面ヲ以テ報告サレ外

務省上局ノ了解ヲ得置クコトシタキ旨ヲ告げ置キ尚目下

該報告至急提出方督促中ナリ

大正十年二月九日

岡部書記官

註 鄭白線營業予算ヲ左掲別紙一トシ新借款團トノ関係説明書

ヲ左掲別紙二トセリ尚鄭白線收支予想概数及公債募集二案

ハ之ヲ省略セリ

(別
紙一)

鄭白線營業予算

大正九年十月滿鉄ノ調査

鄭白線開通後ニ於ケル該線營業収入ノ予算ヲ立テントスル

ニハ先ツ該沿線各地方ノ経済状態ヲ考査スルヲ順序トセん

鄭家屯ヲ去ル七哩ノ白市附近ハ開墾普及シ農産物ニ富ムモ

素ト鄭家屯ノ勢圈内ニ属シ鐵路開通ノ暁モ其產物ハ多クハ

馬車ニテ鄭家屯ニ搬出セラルヘキヲ以テ之ヲ除外スルヲ至

当トセン白市ヨリ清河渡渉点三十六哩ニ至ル二十九哩間ハ

西遼河ニ接近シ南北砂丘間三哩ノ狹長ナル低湿地ニシテ汎

濫區域ニ属シ北方砂丘以北ハ又新河ノ汎濫地域ニシテ且未

開放地ナルヲ以テ農耕見ルヘキ無ク人口亦甚タ稀薄ナリ南

方砂丘ハ遠ク西南ニ連亘シ純蒙古部落点々タルアルノミニ

シテ人煙稀ニ地味亦不良ニシテ蒙古人ノ食料タル糜子以外

農作物ノ眼ニ映スルモノ無シ即鄭家屯ヨリ清河渡渉点ニ至

ル三十六哩ノ沿道及其附近ハ生産地ニ非ス消費地ニモ非ス

即經濟上無価値ノ地方ナリ

清河ヨリ白音太來ニ至ル三十四哩間ノ沿線地方ハ南方砂丘

ヨリ北方西遼河ヲ越エ所謂達賚貝子荒、巴林愛新荒ニシテ

通遼県管内ニ属シ地味饒肥開墾ノ進捗見ルヘキモノアリ内蒙ノ宝庫ト称スルモ過言ニ非ス市邑ハ漸次人口ヲ増加スルト共ニ拡張セラレ其他三々五々部落ノ新設セラルモノ隨処皆然リトス

白音太來ヨリ西方開魯ニ至ル百八十支里ノ区間ハ交通不便

ナルト再三蒙匪ノ掠奪ヲ受ケ人民安住セサリシモ今ヤ逐日

移民加ハリ開墾徐々ニ進捗シツツアリ地味白音太來ニ比シ

稍劣ルト雖モ南滿洲ノ上地ト匹敵スト云ハル

鄭白線市場中其最重要ナルハ該線終端駅タル白音太來ナリ

大林營子ノ如キ錢家店ノ如キ鐵路開通后ニ於ケル繁榮ノ予

測セラルモノアリト雖モ之ヲ白音太來ニ比スレハ同日ノ

談ニ非ス恰モ四鄭線カ四平街ト鄭家屯トヲ聯結シテ初メテ

鐵路存在ノ意義ヲ有スルト等シク鄭白線ハ白音太來ナル大

市場アリテ鐵路布設ノ議ヲ生シタリト云フモ過言ニ非サル

ナリ白音太來ハ其附近土地豐饒ナル為メ迅速ニ開墾セラレ

タルト鄭家屯開魯間ノ中間ニアリテ交通ノ要路ニ位スルヲ

以テ僅々九年ノ短日月ヲ以テ今日ノ發展ヲ來セルニテ殊ニ

四鄭線ノ開通以来南滿洲トノ經濟關係一層密接トナリ漸次

其勢圈ヲ拡張スルニ至レリ将来鄭白線開通スルニ至ランカ

註 左表ヲ省略ス

今鄭白線ノ勢力範囲ニツキ各方面ノ調査ニヨリ数字ヲ基本

トシ現状ヲ加味シテ土地、人口、農耕ノ大勢ヲ見ルニ左表^(註)

(別紙二)

鄭白線ト新借款團トノ関係説明書

ヲ考量シタルニ過ギザル旨説明シ然ルヘシ
説 明

四洮鐵道鄭家屯—白音太來間支線ト新借款團トノ関係

(一) 白音太來支線建設ニ關スル公債發行ニ付テハ契約締結交渉開始ト同時ニ一應借款團トノ間ニ了解ヲ遂グルヲ要ス

(二) 右了解ヲ得ルニ當テハ同支線ガ所謂四洮鐵道本線ト不可分ナル短距離ノ營養線ニシテ殊ニ本文線ノ建設ニ付テハ四洮鐵道ニ附帶スル既定計画トシテ大正八年九月締結セラレタル四洮鐵道借款契約中ニモ明記セラレ居ルニ顧ミ梶原「ラモント」交換文書中特ニ併記ノ必要ヲ見ズト思考シタル次第ナルモ他日無用ノ論議無キヲ期スル為メ為念他關係國資本團ノ了解ヲ求メ置ク旨輕ク説明スルヲ得策トス

(三) 尚本問題ニシテ論議ヲ惹起シタル場合ニハ該支線ガ四洮鐵道ト不可分ニシテ均シク我滿蒙留保ノ根本義タル國民ノ經濟的生存ニ緊切ナル干係ヲ有スルコトヲ説示シ又該支線ヲ本線ノ建設ニ先チ着手シタルハ一二經濟的価値

(一) 本年五月梶原「ラモント」交換文書ニハ四平街鄭家屯線及鄭家屯洮南線カ新借款團ノ共同活動ノ範囲外ニ在ル旨ヲ協定シ所謂四洮鐵道ガ借款團ノ範囲ニ属セザルコトヲ明カニシタルモ特ニ鄭家屯白音太來間支線ヲ明記セズ然ルニ該交換文書中南滿洲鐵道ニ閑シテハ特ニ「其ノ現在ノ支線」ガ借款團ノ範囲外タルコトヲ明記シタルニ顧ミルトキハ前項白音太來支線カ当然借款團ノ範囲外タルコトヲ主張シ得ベキヤ否ヤニ閑シ聊カ論議ヲ免カレザルベキ虞アリ

(二) 借款團紐育會議ノ際武内氏ガ「アディス」トノ私的會議ノ際既成鐵道ノ借款契約ニ附帶スル優先權ハ之ヲ提供スペキ筋合ト思考スト提言シタルニ「アディス」ハ再考ノ末右ノ如キハ所謂具体的進捗シタルモノニ属スト認メ然ルベキ旨ヲ答へタル趣ニシテ結局本問題ハ紐育會議ノ議ニ上ルニ至ラズシテ止ミタリ即チ右ニ閑スル解釈ハ将来實際問題ノ提起ニ依リ論議セラルルコトアルベシ

(四) 前項「アディス」ノ意見ヲ認容シ得ルニ於テハ既成鐵

道ノ支線建設ノ如キモ亦特殊例外的取扱ニ依ラムコトヲ主張シ得ザル限リニ非ザルベシト雖モ此際此種影響尠カラザル問題ニ触ルコトハ不得策ナリト認メラルニ付本件白音太來支線ニ就テハ寧ロ

(一) 同支線ガ四洮鐵道ニ附帶スル重要有利ナル支線ニテ本鐵道ト不可分ナル事情ヲ明カニシ

(二) 殊ニ該支線ノ建設ニ付テハ四洮鐵道ニ附帶スル既定計画トシテ大正八年九月支那財政部及交通部ト我南滿洲鐵道會社トノ間ニ締結セラレタル同鐵道借款契約ニ

モ明記セラレ居ルニ顧ミ梶原「ラモント」交換文書ニハ特ニ併記ノ必要ヲ見ズト思考シタル次第ナル旨

軽ク説明シテ借款團ノ了解ヲ求ムルコト然ルベシ尚右ニ就テハ我銀行團ヨリ米國銀行團(當時ノ行懸ニ顧ミ井上日銀總裁ヨリ先以テ「ラモント」トノ間ニ了解ヲ遂ゲシムルコト或ハ得策ナルヘシ)ニ提議シ日米間ノ了解ヲ得タル上更ニ英仏側ノ確認ヲ求メシムルコト然ルベシ將又本問題ニシテ多少ニテモ論議ヲ惹起シタル場合ニハ我滿

蒙留保ノ根本義タル國民ノ經濟的生存ニ緊切ナル關係ヲ有スルコトヲ説示シ然ルベク又該支線ヲ本線ノ建設ニ先チ着手シタルニ過ギザル旨説明シ然ルベシ

第三号

三〇〇 三月五日 在鄭家屯池部領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

鄭白線解水後起工並工事入札模様報告ノ件

(三月五日接受)

四洮鐵道鄭家屯白音太來間ノ延長工事(七十哩)ハ愈々解

八 四洮鐵道鄭白支線ニ闢スル件 三〇一 三〇二

四一八

水後即刻起工スルコトナリ四平街本局ニテ請負入札ニ附

シタルニ路工ノ大部分ハ支那人ニ落札シ橋梁ト一部ノ路工
ノミ日本側ニ落札シ目下橋梁材料等ノ運送中ナルガ風害

水害等ノ天災ナキ限り本年中ニ竣工ノ予定也

奉天、新民府、鉄嶺、安東、牛莊へ転電セリ

三〇一 三月七日 (内田外務大臣ヨリ)
在中国小幡公使宛(電報)

鄭白線起工ニ闢スル意見具申方督促ノ件

第一一四号
往電第九八号鄭家屯白音太來支線起工ノ件ニ闢シ今尚御回
答ニ接セザル処在鄭家屯領事發本大臣宛來電第三号(貴官
ヘ転電方電訓済)ノ次第モアリ旁々至急貴官ノ御意見電報
アリタシ

三〇二 三月七日 (在鄭家屯池部領事ヨリ)
内田外務大臣宛

鄭白線敷設用地買収及工事請負入札施行立本

年内竣工予定ノ旨報告ノ件
公第四〇号
(三月十四日接受)

大正十年三月七日

四洮鐵道總局ニ於テ工事請負入札ニ附シ爾來慎重ナル審

査ヲ經テ三月二日其結果ヲ發表シタルガ予想通り北京協泰
營造所ニ金二十九万一千四百十八円ニテ落札シ橋梁工事ハ我

ガ東亜土木会社關係筋ニ二万二千四百十八円ニテ落札セリ

ト云フ本鉄路延長七十哩ハ達罕潘家店間ニ遼河ノ支流ニ架
橋ノ必要アル外平坦ナル平野ニシテ殆ンド難工事ト目スベ

キモノナシ工事ハ是ヲ第五段工区ニ区別シ各段起工ノ由ニ
シテ土工工事總面積二十萬坪橋梁延長一千尺ニ過ギザルヲ
以テ降雨期ニ於テ甚ダシキ風水等ノ大障害ナキ限りハ本年

内ニ工事ヲ竣工セシメ又鉄軌ハ満鉄所有ノ旧鉄軌ヲ譲受ケ
使用スルコトト相成リ居ルヲ以テ直チニ之ヲ敷設シ遲クモ
来春特產物出廻期前ニハ列車ヲ運転シテ數年来白音打來ニ
停滞セル農產品ヲ一掃スル意氣込ナリト云フ

右及報告候 敬具
本信写送附先 在支公使在奉天總領事

三〇三 三月九日 (在中国小幡公使ヨリ)
内田外務大臣宛(電報)
鄭白支線ノ起工ニ付満鉄ノ申請ニ認可ヲ与ヘ
差支ナカルヘキ旨回電ノ件

第一九一号(東京ニテ行違延着) (三月十六日接受)
貴電第九八号及第一一四号ニ闢シ
白音太拉支線起工ニ付テハ支那人ニ於テモ十分了解致居ル
儀ニ付御申越通リ満鉄ノ申請ニ認可ヲ与ヘラレ差支ナカル
ベク新借款團トノ関係ニ付テハ昨年道清鐵道延長借款及京
奉支線錦朝線借款ヲ福公司及中華公司ト契約シ既ニ新借款

在鄭家屯

領事 池部 政次(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

鄭白線延長工事ニ闢スル件

四洮線支線鄭家屯白音太來間七十哩ノ延長工事入札ニ闢シ

テハ往電第三号ヲ以テ不取敢報告ノ通リナルガ是ヨリ先キ

四洮局ニテハ同局警務課長孔世陪ヲ土地購買係長ニ任命シ
テ鐵道用地ノ買収ニ當ラシメタルガ本鐵路通過地点ハ全ク

新開地ニシテ人家墳墓等頗ル稀少ニシテ土地買収上何等ノ
困難ナク且買収価額モ殆ンド荒地払下原価額ヲ以テ買収ス

ルコトヲ得一方建築資金ノ借入モ滞リナク出来シタルヲ以
テ弥々四月解氷即刻起工スルノ予定相立チ二月十五日四平

街四洮鐵道總局ニ於テ工事請負入札ニ附シ爾來慎重ナル審

査ヲ經テ三月二日其結果ヲ發表シタルガ予想通り北京協泰

營造所ニ金二十九万一千四百十八円ニテ落札シ橋梁工事ハ我

ガ東亜土木会社關係筋ニ二万二千四百十八円ニテ落札セリ

ト云フ本鉄路延長七十哩ハ達罕潘家店間ニ遼河ノ支流ニ架
橋ノ必要アル外平坦ナル平野ニシテ殆ンド難工事ト目スベ

団ト没交渉ニテ工事ヲ開始シタル実例モアレバ我白音太拉
支線モ右振合ニ準ジ措置シ然ルベキ義ト思考ス

三〇四 三月十日 (在中国小幡公使ヨリ)
内田外務大臣宛(電報)
鄭白線ニ闢スル満鉄ヘノ指図延期方ノ件

第一九五号 至急
(三月十日接受)

往電第一九一号ニ闢シ

其後小田切ト「スチーヴンス」ト本件ニ闢シ話合ノ次第聞
込ミタルニ付満鉄ヘノ御指図ハ後電ヲ待チテ決定セラルル

様致シタシ

三〇五 三月十一日 (在中国小幡公使ヨリ)
内田外務大臣宛(電報)
米國側ガ鄭白線問題ニ注目シ居ルニ付同線起

工ノ決定ニハ慎重ヲ要スル旨稟申ノ件

第二〇六号
(三月十一日接受)

往電第一九五号ニ闢シ最近小田切「スチーヴンス」ニ面会
ノ節先方ヨリ日本側ニ於テハ該線資金供給ノ計画アリトノ
コトナルガ事実ナリヤトノ尋アリ小田切ハ態ト言明ヲ避ケ
何等承知スル所ナキ旨答ヘ置キタル趣ナルガ「スチーヴン

ス」ニ於テ既ニ右ノ如ク本件ニ注目シ居ル以上右実行ノ上ハ必ズ一問題起ル可ク御来示ノ如ク理窟上ハ梶原「ラモント」交換書ニ関係ナキコトヲ主張シ得ルトスルモ「モーラリー」ニハ「ラモント」始メ米國側引テハ借款團側ニ面白カラザル感触ヲ与ヘ少ナクトモ新借款團ノ存立尚極メテ初期ニ属スル今日斯ル經緯ヲ生ズルハ我ニ取り得策ニアラザル様存ゼラレ又「スチーヴンス」ノ右質問ハ矢張リ支那側殊ニ交通部辺ヨリノ聞込ミニ基キテノコトニアラズヤトモ思ハルニ付旁々以テ充分右ノ次第御含ノ上方針御決定相成度シ

三〇六 三月十四日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

鄭白線ノ敷設ニハ東三省ノ閑スル限り格別懸念無キ旨回報ノ件

第九二一号 (三月十四日接受)

外務大臣發在支公使宛電報第九八号ニ閑シ
四鄭鐵道延長支線鄭家屯白音太拉間支線延長建設ノ件ニ閑シ客年十
張作霖始メ孫烈臣、吳俊陞以下各有力者ノ所有地ニ夫々停
車場ヲ建設スルコトトナリ居レルヲ以テ之等有力者ハ鐵道

依命及回答候也

追テ本件ハ或ハ新借款團トノ関係ヲ顧慮スルノ必要可
生哉セ難計ニ付工事ノ模様ニ付テハ隨時御申報相成度此
段申添候也

(欄外註記)

「本件ハ滿鉄ニ指令前一應銀行團幹事ニ了解セシメ置クノ要ナ
キヤ（埴原）」

「井上日銀總裁異存ナシ（岡部印）」

三〇八 三月十九日 墓原外務次官ヨリ
拓殖局長官及大藏次官各宛

鄭白線建設ニ閑スル滿鉄ノ伺出ニ對シ承認ヲ

与ヘタル旨通報ノ件

亞二機密合送第一六三号

四洮鐵道鄭白支線建設ニ閑スル件

曩ニ四洮鐵道局當局ヨリ南滿州鐵道公社ニ對シ四洮鐵道ノ
支線タル鄭家屯、白音太拉線ノ建設方ヲ懇請シ來リタル処
同社ニ於テハ目下幾分資金ニ余裕ヲ有スルニ付當分ノ間同
鐵路局ニ對シ建設所要額金三百五十余万円ヲ融通シ該工事
ノ速成ヲ図ルコトシタキ趣ヲ以テ同社野村社長ヨリ外務

敷設ノ一日モ速ナランコトヲ希望シ且鐵道施設ノ結果ハ該
地方ニ於ケル地価並穀物価格ヲ昂騰セシムル關係上之力速
成ハ地方民一般ノ熱望スル所ニシテ又動モスレハ排日派ノ
煽動ニ乘ゼラル東三省各省議會学生等ニ於テモ之ガ為他
日反対運動ヲ起スベキ模様ナク東三省ノ閑スル限り格別懸
念ナシト思ハル

在支公使ヘ電報セリ

三〇七 三月十九日 墓原外務次官ヨリ
野村滿鉄社長宛

鄭白支線敷設工事進行ニ異存無キ旨回答ノ件

亞二送第三四四号

四洮鐵道鄭白支線建設ニ閑スル件

四洮鐵道鄭家屯白音太拉間支線延長建設ノ件ニ閑シ客年十二月二十三日附及客月二十四日附外務大臣宛貴信ヲ以テ御
來示ノ趣意悉致候該支線ハ大正八年九月支那政府ト貴社ト
ノ間ニ締結セラレタル四洮鐵道借款契約ニ明記セラレタル
既定計劃ニ屬シ且ツ所要建設資金ハ貴社ニ於テ当分ノ間之
ヲ融通セラル趣ニ有之候間客月二十四日附貴信御來示ノ
如キ計画ヲ以テ工事ヲ進行セラルコトニ異存無之候此段

思ハルニ付旁々以テ充分右ノ次第御含ノ上方針御決定相成度シ

三〇八 三月十四日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

鄭白線敷設ニ閑シ滿鉄ノ伺出ニ承認ヲ与ヘタ

第九二二号 (三月十四日接受)

外務大臣發在支公使宛電報第九八号ニ閑シ
四鄭鐵道延長支線鄭家屯白音太拉間支線延長建設ノ件ニ閑シ客年十
張作霖始メ孫烈臣、吳俊陞以下各有力者ノ所有地ニ夫々停
車場ヲ建設スルコトトナリ居レルヲ以テ之等有力者ハ鐵道

大臣ニ宛テ伺出ノ次第有之候本件支線ニ閑シテハ客年五月
梶原「ラモント」協定ニ当リ多少ノ行懸有之當時ノ交換文

書ニハ鄭家屯洮南間本線ノミヲ掲記シ本件支線ニ付テハ何
等明記無之候得共元來同支線ハ四洮鐵道借款契約ニ明記セ
ラレタル既定計劃ニ屬シ四洮鐵道ノ支線トシテ本線トハ不
可分ノモノト云フヘク殊ニ今回ノ計画ハ前記ノ通り特ニ公
債ヲ發行スル次第ニモ無之ニ付新借款團ヨリ問題ヲ起シ來
ル場合ニハ相當弁明ノ途モアルベク尚在奉天赤塚總領事ヨ
リノ來電ニ依レバ張作霖始メ有力者モ該鐵道ノ速成ヲ希望
シ又地方民一般モ之ニ依リ利益ヲ享クルコトト可相成ラ
テ反対運動ノ懸念可無之トノコトニ有之候間前記滿鉄伺出
ニ對シ承認ヲ与ヘ差支無之モノト被思考候ニ付今般同社長
ニ對シ右工事進行ニ異存ナキ旨回示致置候條此段申進候也

(欄外註記)

「井上日銀總裁ニ協議シタル處本件ハ借款團ニ關係ナキ問題ト
ナシ自分及正金ニハ通知セラレザル方可然旨ヲ述べラレタリ」

三〇九 三月二十二日 在奉天赤塚總領事宛（電報）

鄭白線敷設ニ閑シ滿鉄ノ伺出ニ承認ヲ与ヘタ

八 四洮鐵道鄭白支線ニ閑スル件 三〇八 三〇九

四二一

八 四洮鐵道鄭白支線ニ闢スル件 三一〇 三一

四二二

ル旨小幡公使ニ通報及指示ノ件

四二二

第四四号

在支公使ニ転電アリタシ

第一四六号

四月一日鄭家屯停車場ニ於テ四洮鐵道局長以下日文重ナル職員立会ノ上鄭家屯起工式ヲ挙行シ即日土工ニ着手シタルガ当地ハ二月二十八日ヨリ俄ニ解氷シ始メ三十日ニ至リテハ遼河ノ舟行ニ差支ナキ程度ニ達シタルヲ以テ工事ノ進行ニハ何等ノ支障ナキ見込ナリ

貴電第一九一号及二〇六号ヲ以テ申進シタル通り新借款團ニ対シテハ説明ヲ為シ得ルコトト思考セラルニ付今般滿鐵總裁ニ對シ工事進行差支ナキ旨回答シタリ尚或ハ再ビ「スチーヴンズ」ヨリ小田切ニ対シ問合セ来ルコトナキヲ保シ難ク其場合ニハ日本銀行團ハ何等ノ協議ヲモ受ケ居ラズ又本件

支線ハ新借款團規約ニハ何等關係ナキ事業ト諒解シ居ル旨ヲ輕ク応酬セシメ置カルル様致度シ

尚貴電第一九一号ニヨレハ京奉支線錦朝線借款ヲ中英公司ト契約シタル趣ナルカ右ニ閲シテハ當方ニ於テ何等承知セサルニ付事情詳報アリタシ

三一〇 四月一日 在鄭家屯池部領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報) 満鉄ノ古軌条ヲ四洮鐵路局ニ売却ニ闢スル契約書二付報告ノ件

東庶第一四九号 大正九年十二月二十七日附右契約書写

(四月十八日接受)

大正十年四月十六日 東庶第一四九号 大正九年十二月二十七日附右契約書写

(四月十八日接受)

尚貴電第一九一号ニヨレハ京奉支線錦朝線借款ヲ中英公司ト契約シタル趣ナルカ右ニ閲シテハ當方ニ於テ何等承知セサルニ付事情詳報アリタシ

サルニ付事情詳報アリタシ

三一〇 四月一日 在鄭家屯池部領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報) 鄭白線着工ノ為起工式舉行ノ件

東庶第一四九号 大正九年十二月二十七日附右契約書写

(四月二日接受)

第四号

尚貴電第一九一号ニヨレハ京奉支線錦朝線借款ヲ中英公司

(四月二日接受)

(附屬書)
滿鉄ヨリ四洮鐵路局ニ古軌条売却ニ闢スル契約書写

(秘)

契 約 書

南滿洲鐵道株式會社(以下會社ト称ス)及四洮鐵路工程局(以下局ト称ス)ハ軌条其ノ他ノ賣買ニ闢シ契約スルコト左ノ如シ

會社ノ交附金ニ振替フルモノトス但シ右振替ノ結果鄭家屯白音太來間鐵道建設費ニ不足ヲ生シタルトキハ右不足額丈會社ハ追加借款其ノ他ニ依リ之ヲ補充スルコトヲ承諾ス其ノ条件ハ別ニ之ヲ協定ス

第四条 本契約書二通ヲ作成シ會社局各一通ヲ保有ス

大正九年十二月二十七日

中華民國九年十二月二十七日

南滿洲鐵道株式會社

社長 野村竜太郎

四洮鐵路工程局

督辦事務取扱局長 趙世宣

第二条 前条ノ軌条ハ分割シテ之ヲ交附シ交附スヘキ数量

場所及期日ハ予メ會社ヨリ局ニ通知ス

但シ大正十年十二月末日迄全部ヲ交附スルモノトス

中華民國十年十二月末日迄全部ヲ交附スルモノトス

第三条 第一条ノ軌条及附屬品賣買価格ハ壹屯ニ付軌条金百拾六円継目板金百五拾円「ボルト」及「ナット」金百六十円トシ交附部分ニ付スル代價ヲ局

式百六十円トシ交附部分ニ付スル代價ヲ局

ヨリ會社ニ支払フコトトシ右代價ハ大正九年三月五日

中華民國九年三月五日締結四洮鐵道短期借款契約ノ有効期間中ハ右契約ニ依ル

六十四封度軌条受授明細書(写)

一、哩數 九〇哩分

一、交付ノ時期場所及数量ハ大体左ノ予想ニ依ル

第一回 參〇哩分 十年四月中旬

第二回 五〇哩分 十年十月中旬

第三回 壴〇哩分 十年十二月下旬

右ノ内參拾九哩分ハ會社線蔡家孟家屯兩駅間ノ各駅ヨリ

八 四洮鐵道鄭白支線ニ閥スル件 三一一 三一三

四二四

残余五拾壹哩分ハ同大連瓦房店両駅間ノ各駅ヨリ荷積シ
同四平街駅ニ於テ貨車渡シ行フ、但シ發送ヨリ交付ニ
至ル迄ノ運賃諸掛ハ会社社用品ノ率ニヨリ四洮局ノ負担
トス

一、噸数ノ計算

公称噸即軌条一碼六十四封度継目板管哩分五噸五、ボ
ルト及ナット壹哩分〇、六三噸ノ割合トス但シ軌条ニ付
テハ磨滅ヲ斟酌シ總量九千五拾壹噸三ニ対シ參拾噸ヲ減
殺スルモノトス又「スペイク」ハ新規注文ニ付除外ス本
契約ノ噸数ハ總テ英噸ニ依リタルモノトス

一、附屬品ノ員数

軌条員數ニ対スル所要數ニ百分ノ二ヲ割増スルコト

一、軌条ノ長サ

標準三十五呎トシ一割以内ノ短尺軌条ハ差支ナシ

但シ最短ノモノヲ二十二呎五吋トス

一、検査

滿鉄本線ニ現ニ使用スル一等軌条ニシテ其ノ平均磨滅程
度二ミリメートル以内ナルヲ要ス但シ左ノ軌条及配件ハ
受授セサルモノトス

拝啓

附記 五月二十六日附小林滿鉄東京支社員ヨリ岡部亞
細亞局第二課長宛書信

四洮借款金額内訳ノ件

東庶第一九五号

(五月二十一日接受)

客年五月十一日附政一機密送第四七号ヲ以テ御示達相受ケ
候四洮鐵道短期借款契約ニ依ル借款金ハ本月三十日限り
返還期日満了ノ処同鐵道借款契約ニ依ル支那政府ノ公債ハ
今尚発行ノ時期ニアラズト認メラレ候ニ付別案ノ通り更ニ
金壹千式百五拾万円也ノ短期借款契約締結致度候間御承認
相成度此段及申請候也

大正十年五月十九日

南滿州鐵道株式会社

社長 野村 竜太郎(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

二、借款期限 大正拾壹年五月參拾壹日

中華民國拾壹年五月參拾壹日

右期限到来前大正八年九月八日 締結四洮

鐵道借款契約ニ依リ貴國政府四洮鐵道公債ヲ發行

スルヨリモ同契約往復文書ニ依リ一時弊社ヨリ資金ヲ融通

シ左記条件ニ依ル短期借款ト為シ以テ四洮鐵道建設工事ヲ

継続スル様被致候方有利カト被思料候ニ就テハ右様貴國政

府ノ御同意ヲ得度此段照會得貴意候也 敬具

一、借款金額 金壹千式百五拾万円也

註 大正九年五月十一日附政一機密送第四七号ハ同年日本外交
文書第二冊下巻五四六文書(六七〇頁)参照

(附属書一)

五月三十一日附野村滿鉄社長ヨリ中国政府財政部及交通部宛往
翰案

(一)軌条及配件ニシテ腐蝕ノ甚シキモノ

(二)彎曲裂傷等ニテ使用ニ適セサルモノ

(三)曲線ノ外軌ニシテ磨滅甚シキモノ但シ供給量不足ノ
場合ニ於テ四洮本線以外ニ使用スルモノハ検査員ノ
選択ニ依リ多少之ヲ受授スルコトアルヘシ

三一二 五月十七日 (内田外務大臣ヨリ)
在中国吉田臨時代理公使宛(電報)

鄭白線ニ閥スル北京発新聞報道ノ出所探報方
訓令ノ件

第二四八号

東京日日十二日発報知十三日発北京特電トシテ白音太拉線
ノ新借款團投資範圍外ニ留保ヲ忘レタルハ大失態ナリトノ

電報アリ至急通信員ニ付該報道ノ出所取調折返回電アリタ
シ

三一三 五月十九日 (内田外務大臣宛)

野村滿鉄社長ヨリ

四洮鐵道壹千式百五拾万円ノ新短期借款契約
締結承認方申請ノ件

附屬書 滿鉄及中國財政交通兩部間往復書翰案

限ノ更新フナスヘシ

三、借款利率
年九分五厘トス

四、借款調達
手数料
即元金百円ニ付壹ヶ年金九円五拾錢トス
借款金額ノ五分五厘トス

即借款金額百円ニ付金五円五拾錢トシ借款
交付ノ際交付金ヨリ之ヲ控除ス但シ本借款
金額金壹千式百五拾万円中金壹千万円ニ
対スル同率ノ手数料即金五拾五万円也ハ
大正九年参月五日
中華民国九年参月五日 締結四洮鐵道短期借款
契約ニ依リ徵收済ナルヲ以テ右手数料中ヨ
リ之ヲ控除ス

右公債発行ニ際シテハ今次若クハ将来ノ短
期借款契約ニ依リ手数料ヲ負担シタル借款
金額ニ対シテハ大正八年九月八日
中華民国八年九月八日 締結四
洮鐵道借款契約第十三条第二項ニ依ル手数
料ヲ控除セサルモノトス
本借款金額中本契約ニ依リ貴国政府力弊社
ニ支払フヘキ金額ヲ控除シタル残額ハ交付
ト同時ニ弊社ニ預入シ右ニ対シ弊社ハ預入

大正拾年五月参拾壹日

南滿州鐵道株式会社

社長 野村 竜太郎

支那政府

財政總長 李士偉殿

交通總長 張志潭殿

(二)

五月三十一日附中国財政部及交通部ヨリ野村滿鐵社長宛復翰案

拝覆

借款金額金千式百五拾万円ノ内金壹千万円ハ更新既ニ交付
于期限到来ノ處弊社ハ右契約ニヨル借款交付金ノ元利償還
資金並同鐵道建設資金ニ充ツル為大正八年九月八日
中華民国八年九月八日 締結四洮鐵道借款契約(註)
ヨリモ同契約往復文書ニ依リ一時弊社ヨリ資金ヲ融通シ左
記条件ニ依ル短期借款ト為シ以テ四洮鐵道建設工事ヲ継続
スル様被致候方有利カト被思料候ニ就テハ右様貴國政府ノ
御同意ヲ得度旨御照会ノ趣聞悉致候

右ニ対シテハ本部ニ於テ異議無之候
右回答得貴意候 敬具
中華民国拾年五月参拾壹日

拝啓御話之四洮借款金額内訳別紙相送候間可然御取計被成
下度候也
(別紙)

岡部書記官殿

借款金額金千式百五拾万円ノ内金壹千万円ハ更新既ニ交付

濟ミニ係ル金七百式拾万円ニ対スル利息并ニ本年十二月末
日迄ニ要スル支払基金トシテ増額シタルモノナリ

(附 記)

五月二十六日附小林滿鐵東京支社員ヨリ岡部亞細亞局第二課長
宛書信
四洮鐵道千二百五十万円新短期借款ノ内訳ニ閥スル件

大正十年五月二十六日

小林 精実

南滿州鐵道株式会社

社長 野村 竜太郎殿

支那政府
財政總長 李士偉
交通總長 張志潭

内訳

一、金七百式拾万円 既貸付金

二、金四拾七万円 同上ニ対スル利子

註 左記条件ハ前記(一)往翰案ノ左記条件ト同文ナルニ付之
ヨ省略セリ

(三) 説明書

八 四洮鐵道鄭白支線ニ閥スル件 三一三

ノ日ヨリ年利率七分即元金百円ニ付壹ヶ年
金七円ノ率ニ依リ日割計算ヲ以テ利息ヲ附
ス

右預金ハ四洮鐵道督辦ニ於テ二週間前ノ予
告ヲ以テ隨時分割シテ之ヲ引出シ得ルモノ
トス但シ引出シタル金額ニ対シテハ引出ノ
日ヨリ預金利息ヲ附セス

右預金利息ハ本借款ノ精算ト同時ニ精算シ
一括シテ之ヲ支払フモノトス
以上

八 四洮鐵道鄭白支線ニ閑スル件 三一四 三一五

四二八

四、金百拾参万円 古軌条譲受代

五、金百六拾六万円 正金銀行ニ対スル返済金

六、其ノ他ハ十年度一般経費不足額補填

三一四 五月二十六日

内田外務大臣ヨリ

公第二〇三号

大正十年五月二十七日

在支那

四洮鐵道新短期借款許可方ニ閑スル満鉄申請

二付大蔵省ノ意見問合ノ件

亞二機密第五七号

四洮鐵道短期借款ニ閑スル件

本件ニ閑シ南滿洲鐵道株式会社社長ヨリ別紙写ノ通申請ノ

次第有之候処右ハ日支間ノ現況ニ鑑ミ已ムヲ得ザル措置ト

被認候ニ付之ニ承認ヲ与フル事ト致度就テハ委細別紙(註)ニ就

キ御承知ノ上何分ノ貴見至急御回示相成度此段及照会候也

キ御承知ノ上何分ノ貴見至急御回示相成度此段及照会候也

註 別紙ハ前出五月十九日附野村満鉄社長來信ノ写(附屬書類)

トモ)及前出五月二十六日附岡部書記官宛満鉄小林氏來信

添付ノ金千五百円也内訳表ノ写ナリ

三一五 五月二十七日 在中國吉田臨時代理公使ヨリ

外務大臣宛

京津日々新聞 大正十年五月十二日発行

鄭白線工事進捗

鄭白線の通告洩れ

北京亞細亞通信の報ずる所によれば故意か偶然かを識ら

鄭白線ト对中国新借款團トノ関係ニ閑スル新

ざるも我外務當局が一大失策を敢てし近く國際的大問題

惹起の惧れる憂慮すべき事件を發見せり真疑明かなら

ざるも参考迄に其全文を左に轉載す

外務省は四國銀行團間に確認せられたる滿蒙除外例中に當

然加ふ可かりし四鄭延長既定線たる鄭家屯より白音太拉に

到る一線を故意か偶然か銀行團に対して通告せず単に四平

街、鄭家屯、洮南とのみにて同線に關しては全く記載洩れ

となりたり、而も同線即ち鄭白線七十哩は已に本年四月よ

り敷設工事に着手し本年末或は明春を以て全線の開通を見

る可く自下土木工事進捗中にあり這は外務當局の一大失策

にして必ず銀行團の抗議を受け國際問題を惹起す可く外務

省は之に対し果して奈何なる対策を有し何の辞を以て応へ

んとすべきか以下之を詳述すべし

大正二年所謂滿蒙四鐵道と共に四平街鄭家屯間五十余哩即

ち四鄭鐵道敷設の約成り同四年借款契約成立し、同七年八

月全て通運転開始を見たるものなるが右は横浜正金銀行

百万円を以て完成され同時に鄭家屯、洮南間百八十哩の敷

設權をも得て四洮線全長二百三十哩の内蒙鐵道を築成すべし

日本附モント氏は梶原氏宛

日附ラモント氏は梶原氏宛

本團は左の通り貴國銀行團と所見一致せる事を確認す

と前提し其第三項に於て

聞記事切抜送付ノ件

附屬書 五月十三日附京津日々新聞記事切抜

六、其ノ他ハ十年度一般経費不足額補填

(六月一日接受)

大正十年五月二十七日

在支那

臨時代理公使 吉田 伊三郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

件名 鄭白線ニ閑スル新聞記事ノ件 (関係電報 第三号)

本件ニ閑シ左記書類及送付候也

五月十三日京津日々新聞記事

(附屬書) 鄭白線ニ閑スル京津日々新聞記事切抜

満蒙除外例の中に

満蒙除外例の通告洩れ

鄭白線の通告洩れ

鄭白線工事進捗

鄭白線の通告洩れ

八 四洮鐵道鄭白支線ニ閥スル件 三一五

四三〇

吉林、会寧、鄭家屯、洮南、長春、洮南、開原、海龍、
吉林、吉林、長春、新民府、奉天及四平街鄭家屯諸鐵道
は新借款團の共同活動の範囲外にあり
と認諾し茲に右は國際取極として絶対的成文となり之以外
は全く新規敷設を為し得ず万一其必要あらば當然四國銀行
團の

共同活動に俟たざるべからざるは勿論なり然るに右の内鄭
家屯洮南四平街鄭家屯は所謂四洮鐵道にして現在は前記の
如く四鄭間のみ開通せるものにて洮南線は第二予定線たり
しなるが外務省が右の除外線を通告する際に於て何故に四
鄭延長線として確定線たる鄭白線を通告済と為せしか、同
線は満鉄に於て
敷設計画を樹て白音太拉地方の将来頗る有望なる可きを識
り鄭洮線を後廻しとし先行開通せしむる可く各種調査を完了
し本年四月一日を以て起工式を挙げたるものにして右銀行
團取極中に之を含まざるに於ては當然其明文に掲つて我滿
蒙に於ける除外域を脱し四國銀行團の共同投資圏内に属す
可きものたるは謂ふ迄も無き所なるべし而も現在に於て工
事に着手し年内に開通を見る可しと謂ふに到つては

三一六 六月六日 高橋大蔵大臣ヨリ
内田外務大臣宛

四洮鐵道新短期借款ニ閑スル満鉄申請承認二

異議ナキ旨回答ノ件

官房秘乙第一六一三号

四洮鐵道短期借款ニ閑スル件

五月二十六日附亞二機密送第五七号御照会ノ首題ノ件ハ異

議無之候右及御回答候也

大正十年六月六日

大蔵大臣 子爵 高橋是清(印)

外務大臣 伯爵 内田康哉殿

三一七 六月七日 塙原外務次官ヨリ
早川満鉄社長宛

四洮鐵道千二百五十万円新短期借款契約締結

承認ノ件

亞二機密送第五二号

四洮鐵道短期借款ニ閑スル件

客月十九日付東庶第一九五号ヲ以テ野村前社長ヨリ内田外
務大臣へ宛テ申請相成候金壱千式百五拾万円也四洮鐵道短
期借款契約締結致度趣ヲ以テ右承認

八 四洮鐵道鄭白支線ニ閑スル件 三一六 三一七 三一八

我国自ら早くも公約を破り規約に反して単独動作を執りた
るものにて外務省は果して銀行團の抗議に備ふる所あるベ
きや蓋し外務省の一大失策にして或は計画当事者たる満鉄
が外務省宛申達済れとなりたるなる可きや計られざるも
計画當面の責任者として斯かる手落を為す可しとも信じら
れず勿論予算書其他を添付すべきなるを以て満鉄の失策に
は非ざる可く帰する所外務当局の手に依つて此大失策を演
じたるものと謂ふの外無し、今白音太拉線の概況を挙げん
に鄭家屯より七十哩、其間白市、達罕、大林營子、錢家店
其他を合し中間八駅を有し先づ
四百万元を以て土木工事を完了し軌条車輛等は満鉄より供
給すべく本年中軌条敷設工事を終り明春早々運輸開始の予
定にあり其間地味豐沃東蒙第一の良地を縱断するものにて
農作物の収穫亦東蒙第一位なり此故を以て鄭洮線を後廻し
としたるなるが以上の如く四線に比し更に二十哩の延長を
有する同線の除外範囲に入る可きや否や外務当局の深省を
要とするもの大なり

期借款契約締結ノ件異存無之候此段及示達候也

三一八 六月十四日 在中國吉田臨時代理公使在奉天吉原總
領事代理及在鄭家屯池部領事各宛

満鉄ノ四洮鐵道千二百五十万円新短期借款契

約締結承認ニ付通報ノ件

亞二機密送第一二二号

四洮鐵道短期借款ニ閑スル件

大正八年九月八日締結ノ四洮鐵道借款契約ニ依レバ起工期

限タル調印ノ日ヨリ六箇月以内ニ南滿洲鐵道株式會社ニ於

テ支那政府公債ヲ發行シ建設費ニ充当スルコトト相成居候

處當時局ノ關係上右募債ニ支障有之タル為該契約附屬往

復文書ニ予想シタル満鉄社債ヲ以テ需要ニ応ズルコトト相

成客年五月十七日金額壹千万円ノ短期借款契約成立シ内金

五百万円ハ八年十一月十五日交付ノ前渡金ノ返還ニ充当シ

其他今日迄金式百式拾万円ヲ貸出シ居候然ルニ該借款金ハ
客月三十一日限り返還期日満了ノ處支那政府ノ公債發行ハ
今尚其ノ時期ニ非ズト認メラルニ付別紙写ノ通り更ニ金
壹千式百五拾万円ノ短期借款契約締結致度趣ヲ以テ右承認

方南滿洲鐵道株式会社ヨリ申請ノ次第有之篤ト詮議ヲ遂ゲタル処支那現下ノ情勢ニ鑑ミ右ハ已ムヲ得ザル措置ト被認候ニ付本月六日付ヲ以テ承認ヲ与ヘ置候間右様御承知相成度別紙相添此段申進候也

註 別紙ハ前掲滿鉄社長ヨリ内田外務大臣宛書信五月十九日附 東庶第一九五号写及五月二十六日附岡部書記官宛小林満鉄 東京支社員來信添付ノ内訳書写ナリ

三一九 六月十五日

在鄭家屯池部領事ヨリ
内田外務大臣宛

鄭白線ノ工事進行予定ニ閔シ報告ノ件

大正十年六月十五日 (六月二十二日接受)

公第八九号

大正十年六月十五日

在鄭家屯

領事 池部 政次 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

四洮鐵道ノ支線タル鄭家屯白音太来間ノ鐵道延長工事ハ既報ノ通り本年四月一日起工式即下土工ニ着手シ目下着々進行中ナルガ全線七十二哩ノ内鄭家屯ヨリ起リ四十三哩間即

封度軌条十七哩分ハ已ニ満鉄ヨリ輸送済トナリ居レルガ軌

条ノ敷設ハ一日平均半哩一ヶ月約十二三哩ヲ敷設スル由ナ

レバ本年九月初旬迄ニハ鄭家屯白市間ニ建築列車ノ運転ヲ

見ルニ至ルベク然ル上ハ材料ノ運搬モ比較的容易トナリ本

年結冰期迄ニ或ハ第一段全部ノ軌条敷設ヲ了ルニ至ルベク

爾余ノ工事ハ明年解氷即下着手シ一氣呵成ニ竣工セシメ遅

クモ六月ヨリハ貨客列車ヲ運転セシムルコトヲ得ベシト云

フ

尚鄭家屯白音太来間ニ設置スベキ十停車場並ニ職員宿舎等

ノ建築等ハ路工竣工ノ見込確定次第可成本年内ニ着手シ大

部分ハ結氷前ニ落成セシムル予定ナレドモ果シテ所期ノ如

クナルヤ否ヤ路工竣工ノ上ニ非ズンバ逆睹スペカラズ

右及報告候 敬具

本信写付先 在支臨時代理公使在奉天總領事代理

三一〇 七月一日

早川満鉄社長ヨリ

四洮鐵道千二百五十万円新短期借款契約文二

付訂正方申越ノ件

(七月二日接受)

八 四洮鐵道鄭白支線ニ閔スル件 三一〇

チ第一第二第三工区ヲ包括スル第一段ハ四洮局姉川技師監督トシテ專ラ工事ヲ監察シツツアルガ本区ノ工事ハ偶々解

水後ノ強烈風多キ季節ニ方リタルヲ以テ一旦土工ヲ了リタル箇所ニシテ屢々土砂ニ埋没シタルコトアリテ稍々工事ノ進捗ヲ遲延セシメタルモ左シタル障礙ナクシテ略ボ予期ノ如ク進捗シ第一工区ハ六月三十日第二工区(A)段ハ七月末、同(B)段ハ八月末、第三工区ハ九月末迄ニ土工ヲ了ル筈ナリ又第二段即チ残余ノ二十九哩第四第四第五工区ハ何レモ十月末迄ニ土工ヲ終了スル予定ニシテ目下ノ處第三区迄ハ八分通り竣工シ十一月末迄ニハ全部ノ土工ヲ竣成セシムル筈ナリ又本延長工事中唯一ノ難工事ト目スベキ清河ノ橋梁六百六十呎ハ本邦人ノ請負ニ係リ既ニ本春結氷期間ニ所要ノ材料ヲ運搬シ目下多數ノ苦力ヲ使役シテ護岸並ニ橋脚杭打中ナルガ該橋梁架設工事ハ予想ニ反シ地盤堅クシテ工事ノ進捗意ノ如クナラズ且ツ材料ニ不足ヲ生ジ目下吉林ヨリ取り寄せ補給中ナルガ万難ヲ排シ請負期間内ニハ竣工セシムル筈ナルヲ以テ全線ノ竣工期限ニハ甚ダンキ変更ナカルベシト思料セラル尚既ニ土工ヲ終リタル第一段第一区ハ来ル七月初旬ヨリ軌条敷設ニ着手スル由ニテ是レニ要スル六十四

六月七日附亞二機密送第五二号ヲ以テ御示達相受ケ候四洮

鐵道短期借款契約ニ閔スル往復文書中左記ノ通御訂正相成度

第四号第三項中

「右公債發行ニ際シテハ」云々トアルヲ「四洮鐵道公債發行ニ際シテハ」ニ

第五号

「五」ノ下空欄ニ「借款金額」ノ六字ヲ加フ
預金

尚右交換文書名宛ノ義支那側財政、交通兩總長共更迭後未タ就任致サレス候ニ付止ムヲ得ス往文ニハ

「財政部御中」

交通部御中

トシ復文ハ

「財政部 朱延昱

交通部 張志潭」

トシ印鑑ハ共ニ正式ノ部印ヲ用キルコトニ致度候ニ付御承認相成度此段及申請候也

三二一 七月七日 増原外務次官宛ヨリ

四洮鐵道千二百五十万円短期借款契約文中ノ

訂正了承ノ件

亞二機密送第七四号

本件ニ關シ七月一日付東庶第三〇五号ヲ以テ申請相成閱悉致候右ハ別段異存無之候間此段及示達候也

三二二 七月七日 在鄭家屯池部領事ヨリ

内田外務大臣宛

鄭白線工事進捗狀況報告ノ件

機密第一九号

(七月十三日接受)

大正十年七月七日

在鄭家屯

領事 池部 政次(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

ナカル可シト被思料候間此段及報告候 敬具

本信写送附先 在支公使在奉天總領事代理

三二三 七月十二日

川村拓殖局長官ヨリ

四洮鐵道新短期借款契約文中ノ訂正ヲ外務省

ヘ通牒ノ件

(七月十三日接受)

拓庶第七四六号

大正十年七月十二日

拓殖局長官 川村竹治(印)

外務次官 増原正直殿

曩ニ拓庶第七四六号ヲ以テ貴省ニ合議致候南滿洲鐵道會社

ノ四洮鐵道短期借款契約締ニ閑スル件ハ五月三十日附認可相成候處右ニ関シ同會社ヨリ本月一日附ヲ以テ左記ノ通

リ往復文書中訂正致度旨申請有之本件一、第四号ハ單ニ字

句ノ修正ニシテ一、第五号ハ新ニ項目ヲ挿入シタルニ過ギ

ズ三、往文ノ宛名ハ契約當時兩總長共更迭後未ダ正式ニ就

任セラレザリシヲ以テ協議ノ結果支那側ニ於テハ官序名ヲ

以テ受理シ四、復文ハ同様ノ理由ニ因リ官名ヲ須ヒズ代表

者名ニヨリタル趣ニ付本件再廻議ニ附セズ七月二日附ヲ

八 四洮鐵道鄭白支線ニ閑スル件 三二三 三二四

鄭白線敷設工事著々進捗ノ狀況報告ノ件

客月十五日附公第八九号報告後本延長線ノ工事ハ予定ノ通り進捗シ既ニ第一段ノ土工ハ全部竣成シ本月一日ヨリ鐵軌ノ布設ヲ開始シ既ニ四哩強ハ完全ニ之ヲ終了シ目下建築材料車ヲ運転致居候尚白音太來停車場ノ選定ニ閑シテハ同地方面ノ大地主タル現黒竜江省督軍吳俊陞氏等ト予テ停車場敷地ヲ見込ミ射倅ノ目的ヲ以テ事前ニ土地ヲ買収シ居タル四洮鐵道局支那人技師連ノ間ニ暗闘ヲ生ジ一時ハ市街ヲ去ルニ哩強ノ地点ニ在ル技師連ノ所有地ニ決定セシ模様アリタルモ白音太來全市民ハ停車場ノ距離遠隔ニシテ交通ノ不利不便ナルハ勿論枢機ニ參與スル鐵道局員力私利ヲ貪ランガ為メ公器ヲ乱用スルノ不可ナルヲ責メ全市罷市ノ決心ヲ以テ四洮局ニ迫リ一面吳督軍等ヨリ圧迫ヲ加ヘツツ四洮鐵道局長ノ反省ヲ促シタルヲ以テ終ニ最近ニ至リ白音太來市街ニ近ク停車場ヲ設置スルコトニ確定シ已ニ工事ヲ始メタル由ナレバ何レ遠カラズシテ全線ノ土工モ終了スルコトト被存候尚四洮局長ノ談話ニテハ霖雨其他ノ甚ダシキ天災ナキ限り遲クモ本年十一月ニハ全線建築列車ヲ運転セシメ明年三月迄ニ一般貨客ノ取扱ヲ開始スルニ至ル可キ見込ナリトノ事ニ有之目下工事進捗ノ振合ニ顧ミレバ多分右ニ相違

テ認可相成候條左様御承引被下度右為念及通牒候也

記

四洮鐵道短期借款契約ニ閑スル往復文書中訂

一、第四号第三項中

「右公債發行ニ際シテハ」トアルヲ

二、第五号ト本文トノ間ニ

「借款金額
預
金」ノ六字ヲ加フ

三、往文ノ宛名(支那政府代表者)

「財政總長李士偉殿、交通總長張志潭殿」トアルヲ

四、復文ノ支那政府代表者名

「財政總長朱延昱、交通部張志潭」ト改メ尚印鑑ハ共ニ

正式ノ部印ヲ用キルコト

三二四 八月十八日 在鄭家屯池部領事ヨリ

内田外務大臣宛

公第一二三号

(八月二十九日接受)

大正十年八月十八日

在鄭家屯

領事 池部 政次（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

白音太来延長線工事ニ闊スル件

本件ニ關シ其後軌鉄ノ敷設ハ鄭家屯ヨリ二十六哩半ノ地点迄竣成シ目下建築列車ハ二十三哩ノ地点迄日々二回乃至三回材料車ノ運転アリテ本月中ハ大罕迄即チ延長線ノ一半ハ軌道布設ヲ了ル可キ見込ナリ土工ハ比較的良好ニシテ去月末再三非常ノ豪雨アリタルニモ拘ラズ線路並ニ橋梁共左シタル破損ナク僅カニ白音太來錢家店間ノ小清河氾濫地段ノミ若干土工ノ決潰アリタリ技師ノ説明ニ依レバ該地方一帯ハ砂土ニ曹達分ヲ含有スルコト著シキヲ以テ堀割其他盛土等モ滿鉄本線並ニ四鄭間線路ニ比シ良好ナル所以ナリト云フ尚久門技師長ノ説明ニ依レバ既ニ天候モ恢復シ材料車ノ運転ニモ何等ノ障害ナキヲ以テ此分ニテ工事進行セバ來ル十一月初旬迄ニハ白音太來迄全線ノ建築列車ヲ運転スルコ

トヲ得或ハ旅客荷物ノ取扱ヲ開始スルニ至ルヤモ計リ難シト雖モ中間駅々舍並ニ駅員宿舎其他ノ附屬建築物等ハ未ダ着手ノ運ニ至ラザルヲ以テ仮令前記荷客ノ運送ヲ開始スルト雖モ恐ラク白音太來及鄭家屯ノ両駅間ノミナル可ク弥々全線ノ運転ヲ開始スルハ來春解水時期前後ナル可シト云ヘリ本月十六日本官建築列車ニ便乗シ実地ヲ視察シタルニ鄭家屯白市間約六哩ハ開放地ナルヲ以テ鐵道沿線一帶間隙ナク農耕セラレ居ルヲ見ルモ白市ヨリ大罕迄ハ未開放地多キヲ以テ目下広漠タル原野ニ蒙古人ノ牧畜ヲ營ム者点々散在スルニ過ギズト雖モ一旦交通機関完備スルニ至レバ近キ将来ニ於テ或ハ漸次開放セラルニ至ル可ク又大罕ヨリ白音太來間ハ已ニ開放地ニシテ殊ニ該地方ハ東蒙古ニ於ケル有數ノ沃野ニ属シ現ニ一ヶ年雜穀約七万噸ノ產出アル有望地ナレバ汽車開通ノ上ハ自然白音太來市ノ商業其他ノ面目ヲ一新スルハ勿論農業方面ハ殊ニ急劇ナル發達ヲ為シ東蒙古ニ於ケル一大特產物ノ集散地タルニ至ル可シト思料ス

右及報告候也

本信写送附先 在支公使並奉天總領事

三二五 八月二十三日 在鄭家屯池部領事ヨリ
内田外務大臣宛

四洮鐵道開通後三箇年ノ一般營業狀態ニ闊シ

報告ノ件

附属書 四洮鐵道營業狀態

公第一二五号

(八月二十九日接受)

在鄭家屯

領事 池部 政次（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

四洮鐵道開通後三ヶ年間ノ一般營業狀態並ニ大正九年鄭家屯ニ於ケル輸出入品数量等別紙ノ通調查正副二通差進候間御查閱相成度此段申進候 敬具

(附屬書)

四洮鐵道營業狀態

一、四鄭間開通後ノ一般狀態

大正六年十一月四洮鐵道中四平街鄭家屯間ノ五十四哩線路ニ於ケル營業開始以来已ニ三年有半ヲ過シ一般ノ營業狀態大ニ佳良トナレリ開通當時ハ輸送貨物ノ如キモ社用建築品

ノ数量其大部分ヲ占メタルモ諸般ノ規模等漸次整頓スルニ伴レ貨車ノ收入次第ニ増加スルニ至リ又四鄭間ノ運輸時日モ一再改正シテ完全ニ滿鉄本線ト聯絡シテ旅客ノ便宜ヲ計リ建設方面ニ於テモ亦本有ノ四平街八面城傅家甸三江口鄭家屯五停車場ノ外更ニ昨九年中ニ於テ泉溝曲家店ノ二停車場ヲ新設シ目下更ニ三江口鄭家屯間ニ一棵樹停車場ヲ建設シツツアリテ沿線貨物ノ出廻ニ多大ノ裨益ヲ來シタリ又旅客並ニ貨物ノ收入方面ニ於テモ旅客收入ハ三年間ノ平均年々約二割ノ増進率ヲ示シ貨車ノ收入ニ至リテハ更ニ良好ニシテ大正七年ニ於ケル一日一哩平均收入大洋十二元五十ニ仙ニ比シ大正九年ハ同大洋二十一元九十三仙トナレリ而シテ此ノ傾向ハ将来鄭家屯白音太來間ノ支線開通スルニ迨ヒ益々顯著ヲ加フルヤ必セリ

二、大正九年中ノ旅客及收入並ニ前三ヶ年ノ比較表

大正九年中ニ於ケル乗客總數ハ無實乘車客ヲ合算シテ十九万二百八十三人ニシテ此ノ收入大洋銀二十四万八千四百八十一元余ナリトス旅客ノ最輻輳スル時節ハ正月並ニ十二月ニシテ最閑散期ハ六月七月ノ炎暑期ニシテ年々其軌ヲ一二ス左ニ開通以來三ヶ年間ノ統計ヲ示ス

(イ) 旅客及収入

(単位大洋元)

| 款別 月別 | 大正七年 | | 大正八年 | | 大正九年 | |
|----------|--------|-----------|--------|-----------|--------|-----------|
| | 乗客数 | 客車収入 | 乗客数 | 客車収入 | 乗客数 | 客車収入 |
| 一月 | 8,792 | 12,463.49 | 14,643 | 19,963.63 | 19,615 | 25,531.98 |
| 二月 | 8,885 | 12,012.57 | 11,587 | 15,728.70 | 14,539 | 18,197.12 |
| 三月 | 16,697 | 22,637.43 | 18,102 | 23,995.26 | 23,901 | 31,283.00 |
| 四月 | 15,167 | 20,177.99 | 14,354 | 18,042.07 | 20,100 | 26,263.09 |
| 五月 | 10,825 | 14,333.36 | 12,998 | 16,225.19 | 15,567 | 20,102.14 |
| 六月 | 9,046 | 12,057.30 | 10,336 | 13,444.74 | 11,928 | 15,369.13 |
| 七月 | 9,238 | 12,177.90 | 10,459 | 13,327.06 | 11,833 | 15,459.29 |
| 八月 | 9,984 | 12,939.12 | 10,400 | 12,669.25 | 13,313 | 17,514.30 |
| 九月 | 10,983 | 14,745.76 | 12,425 | 16,387.71 | 14,310 | 18,813.94 |
| 十月 | 11,377 | 14,774.02 | 12,812 | 16,714.45 | 14,846 | 19,812.10 |

三、大正九年中ハ輸送貨物及實金収入並ニ前二年ハ比較
 大正九年中ニ於ケル輸送貨物ノ総噸数ハ二十四万五千四百三
 十八噸ニシテ此ノ實銀大洋四十五万七千一百十九元六十三仙
 ニシテ是ヲ大正七年ノ輸送数量二十万一千六百四噸此運賃
 二十万九千四十八元十仙ト対照ヘル時ハ噸数ニ於テ僅カニ
 四万一千五百三十四噸ノ増加ニシテ然ニ運賃ニ於テハ二十
 四万八千零七十元五十三仙ノ大々的増加ヲ示シ居ニリ是

(ロ) 輸送貨物及實金

(単位公噸)

| 款別 月別 | 大正七年 | | 大正八年 | | 大正九年 | |
|----------|--------|-----------|--------|-----------|--------|-----------|
| | 噸 数 | 實 金 | 噸 数 | 實 金 | 噸 数 | 實 金 |
| 一月 | 11,298 | 12,164.62 | 23,256 | 36,741.77 | 19,674 | 53,029.76 |
| 二月 | 13,017 | 12,577.96 | 16,921 | 29,381.79 | 19,070 | 52,171.93 |

| | | | | | | |
|-----|---------|------------|---------|------------|---------|------------|
| 三月 | 17,655 | 24,066.53 | 26,217 | 45,493.30 | 29,894 | 74,392.97 |
| 四月 | 23,366 | 19,870.53 | 27,970 | 44,555.95 | 22,592 | 52,082.78 |
| 五月 | 28,486 | 21,003.22 | 35,674 | 43,518.85 | 23,245 | 43,444.20 |
| 六月 | 20,351 | 15,993.93 | 24,358 | 44,879.53 | 20,080 | 22,785.09 |
| 七月 | 10,999 | 10,372.38 | 17,901 | 31,437.92 | 40,003 | 28,793.17 |
| 八月 | 10,185 | 8,726.15 | 17,748 | 34,230.61 | 18,467 | 19,999.69 |
| 九月 | 9,268 | 9,796.68 | 17,285 | 27,140.00 | 10,315 | 22,595.34 |
| 十月 | 15,518 | 19,692.84 | 12,799 | 26,500.58 | 17,351 | 30,428.32 |
| 十一月 | 17,952 | 21,268.27 | 19,632 | 39,983.31 | 11,985 | 25,852.08 |
| 十二月 | 24,509 | 33,494.99 | 21,776 | 47,046.00 | 12,462 | 31,544.30 |
| 合計 | 202,604 | 209,048.10 | 251,537 | 450,957.81 | 245,138 | 457,119.63 |

四、輸送貨物並(前)二年比較商業収入

本鉄道ハ依ル輸送貨物中大豆醸造粟麻子瓜子雜糧豆餅栗
材織毛骨皮並(織物)^(織物)輸出品中又石炭塗綿糸綿
布並(酒砂糖其他)食料品麻袋蔬菜果實石油洋灰紙鹽磁器

(八) 営業収入比較表
麦粉等ハ輸入品ハ重ナル種類左の大正七年乃至九年二年
年間ハ於ケル商業収入比較表ハ示ス

| 款別 月別 | 大正七年 | | 大正八年 | | 大正九年 | |
|----------|-----------|--------|-----------|--------|------------|--------|
| | 全 収 入 | 一日一噸平均 | 全 収 入 | 一日一噸平均 | 全 収 入 | 一日一噸平均 |
| 一月 | 24,628.11 | 13.33 | 56,753.40 | 20.80 | 78,561.74 | 28.83 |
| 二月 | 24,610.53 | 9.99 | 45,110.49 | 18.31 | 70,369.05 | 27.61 |
| 三月 | 46,703.96 | 17.12 | 69,488.46 | 25.47 | 105,675.97 | 38.78 |
| 四月 | 40,048.52 | 15.17 | 62,598.02 | 23.71 | 78,345.87 | 29.71 |
| 五月 | 35,336.58 | 12.95 | 59,744.04 | 21.90 | 63,456.34 | 23.32 |
| 六月 | 28,051.23 | 10.63 | 58,324.27 | 22.12 | 38,154.22 | 14.47 |
| 七月 | 22,550.28 | 8.27 | 44,764.98 | 16.43 | 44,252.46 | 16.22 |
| 八月 | 21,665.27 | 7.94 | 46,899.86 | 17.21 | 37,513.99 | 13.77 |
| 九月 | 24,542.44 | 9.30 | 43,527.71 | 16.51 | 41,409.28 | 15.69 |
| 十月 | 34,466.86 | 12.63 | 43,215.33 | 15.86 | 50,240.42 | 18.44 |

| | | | | | | |
|-----|------------|-------|------------|-------|------------|-------|
| 十一月 | 35,762.63 | 13.55 | 59,714.93 | 22.65 | 45,274.17 | 17.15 |
| 十二月 | 53,194.32 | 19.50 | 70,301.45 | 25.80 | 52,257.17 | 19.18 |
| 合 計 | 391,560.73 | 12.53 | 660,442.94 | 20.56 | 705,600.63 | 21.93 |

五、現行乗車賃銀及貨物運賃摘要(大正十年一月改訂)

一、四平街鄭家屯間乗車賃銀

一等 大洋銀四元四十仙

二等 " 一元六十五仙

三等 " 一元七十五仙

二、小荷物運賃

(イ)普通小荷物一斤ニ付五十里若クハ其未滿每ニ 一十

五仙

三、特殊小荷物

甲、新聞雑誌類距離ノ遠近ヲ問ハズ一斤ニ付一仙最

低運賃二十五仙

乙、生獸類

馬一頭 一里ニ付五仙 一頭ノ最低運賃五元

小馬驥 一里ニ付四仙 一頭ノ最低運賃四元

四、普通貨物

| 級 別 | 一 級 品 | 二 級 品 | 三 級 品 | 四 級 品 | 五 級 品 | 六 級 品 |
|-------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 小口扱(百 斤一里ニ付) | 七厘五毛 | 六厘五毛 | 五厘五毛 | 四厘五毛 | 三厘五毛 | |
| (一車扱(一 噸一里ニ付)) | 六仙五厘 | 五仙五厘 | 四仙五厘 | 三仙五厘 | 三仙 | 二仙五厘 |

一斤ニ付五十里迄一仙五厘

一斤ニ付五十里以上二仙

最低運賃 十仙

六、大正九年中鄭家屯輸出入数量

当地ニ於ケル輸出入品ノ全路ハ遼河ノ水運ニ依ルモノヲ除

ク外殆ト四洮鐵道ニヨリ輸送セラルモノトス今大正九年

ノ水陸輸送貨物比較表並ニ其ノ輸出入数量ヲ示セハ左ノ如

シ

(ロ)輸入

(単位公噸)

在鄭家屯

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

領事 池部 政次(印)

| 品名 | 高粱 | 大豆 | 瓜子 | 雜糧 | 域 (幾方?) | 其他 | 合 計 |
|-----|--------|--------|--------|--------|------------|-------|---------|
| 送別 | | | | | | | |
| 陸 運 | 16,273 | 17,823 | 12,924 | 28,645 | 2,913 | 3,615 | 821,193 |
| 水 運 | 249 | 2,375 | 85 | 157 | 797 | 1,198 | 4,863 |

九月十七日 在鄭家屯

内田外務大臣宛

鄭白線建設工事進捗ハ十一月初旬ヨリ貨客列

車運転ノ予想ナル旨報告ノ件

公第一三一號

(九月十五日接受)

大正十年九月十七日

客月十八日付公第一三一號報告後白音太來ヲ侵シタル洪水ハ本線路ニ沿フテ流トシ錢家店一帶ハ水勢尤モ甚タシク同地ヨリ大罕迄ノ線路ニ數ヶ所ノ破損ヲ生シタルモ其後水勢次第ニ減退シ天氣又晴快トナリタルヲ以テ日夜復旧工事ニ努力シタル結果今日ニ於テハ最早原態ニ復帰シ建築列車ノ運転ニ差支ナキニ至リタリ而シテ建築列車ハ田下二十六哩迄運転シツツアリト雖モ鐵軌ノ敷設ハ將サニ三十六哩ヲ突破セントシツアリテ若シ此ノ進行能率ヲ以テ工事進捗スルニ於テハ十一月初旬ヨリ貨客列車ヲ運転ス可キ予想モ多分外ルルコトナカル可ク当局ニ於テモ略ホ此ノ見当ヲ以テ

八 四洮鐵道鄭白支線ニ闊スル件 三二七 三二八

四四四

當日ヨリ起算シ四十五日間ニ主要駅舎並ニ營業処ヲ建築スル段取ニ運ヒタル由ニテ既ニ一二建築業者ヨリ工事見積書ヲ徵シタレハ不日駅舎ノ工事開始セラルニ至ル可シ
右及報告候 敬具

本信写送附先 在支公使並ニ奉天總領事

三二七 九月二十八日 在鄭家屯池部領事ヨリ
内田外務大臣宛

鄭白線全線開通時期見込ニ闊シ報告ノ件

公第一四六号

大正十年九月二十八日

(十月三日接受)

在鄭家屯

領事 池部 政次(印)

外務大臣伯爵

内田 康哉殿

四洮鐵道鄭家屯白音太來間延長工事進捗ノ状態ニ闊シテハ累次報告ノ通ナルカ其後工事順潮ニ進行シテ既ニ白音太來

終点迄ノ土工ヲ完全ニ終了シ鄭家屯ヨリ六十哩ノ地点ニアル錢家店迄ハ既ニ枕木ヲ敷設シ引続キ鐵軌布設中ニテ材料運搬車モ不日同地点迄運転スル筈ナルカ四洮鐵道局ニテハ白音太來方面往来旅客ノ便宜ヲ計ル為メ特ニ來ル十月一日

右及報告候 敬具
本信写送附先 在支公使奉天總領事

客年十月以降北支那饑民救済ノ為メ四洮鐵道局ニ於テハ旅客手荷物並ニ貨物ニ義捐金ヲ徵收シ居タルコトハ客年十月十六日附送第一六六号拙信報告ノ通リナルカ右徵收ハ最早本年相當ノ収益ヲ獲此ノ上繼續スルノ必要ナキニ至リタルヲ以テ本月九日限リ之ヲ廢止セリ

四洮鐵道義捐資金徵收撤廃ノ件

三二九 十月二十六日 在鄭家屯池部領事ヨリ
内田外務大臣宛

鄭白線鄭家屯錢家店間ノ開通等ニ闊シ報告ノ件

公第一六四号

大正十年十月二十六日

(十一月二日接受)

在鄭家屯

領事 池部 政次(印)

外務大臣伯爵

内田 康哉殿

右及報告候 敬具

写送付先 在支公使並ニ奉天總領事

三三〇 十一月十六日 在鄭家屯池部領事ヨリ
内田外務大臣宛

四洮鐵道鄭白支線延長工事ハ結氷期ヲ目前ニ控ヘ居ルヲ以テ

八 四洮鐵道鄭白支線ニ闊スル件 三二九 三三〇

ヨリ建築列車ニ三等客車ヲ聯結シテ先ツ鄭家屯大林營子間(六五・三公里四〇・六英里)ノ旅客ノ便乗ヲ取扱ヒ乗車

貨銀大洋一円三十仙ヲ要スル筈ナリ尚鄭白間全線ノ開通迄ニハ約二個月ヲ要シ十二月初旬ニハ全通ノ予定ナルモ若シ日ヲ線上クルコトヲ得ヘキ見込ニシテ要スルニ鄭白間ノ全通ハ最早予定ノ通民国十年中ニ開始スルニ至ルコト疑ナキニ至レリ

滿鉄ヨリ鐵軌ノ讓渡遲滯ナク進行スルニ於テハ更ニ竣工期ニハ約二個月ヲ要シ十二月初旬ニハ全通ノ予定ナルモ若シ

貨銀大洋一円三十仙ヲ要スル筈ナリ尚鄭白間ノ開通迄ニ至レリ

右及報告候 敬具

写送付先 在支公使並奉天總領事

三二八 十月十五日 在鄭家屯池部領事ヨリ
内田外務大臣宛

四洮鐵路局ノ華北饑民救済ノ為ノ義捐金徵收

公第一五七号

大正十年十月十五日

(十月二十一日接受)

在鄭家屯

領事 池部 政次(印)

外務大臣伯爵

内田 康哉殿

四洮鐵路局ノ華北饑民救済ノ為ノ義捐金徵收

公第一五七号

大正十年十月十五日

在鄭家屯

領事 池部 政次(印)

外務大臣伯爵

内田 康哉殿

諸材料ノ運搬軌道ノ布設等全力ヲ注ギ督励シ既ニ白音太來迄全線ノ土盛工事ヲ了ヘ目下軌道ノ布設中ニシテ本月二十五日ヨリ鄭家屯錢家店間約六十哩ノ仮運転ヲ行ヒ三等旅客並ニ手荷物及小口扱貨物ノ取扱ヲ開始シ午前五時建築列車同六時混合車ヲ発車スルコトナレリ而シテ上記手荷物及小口扱貨物ノ運賃率ハ現行四洮線ノ賃率ニ依リ尚時宜ニヨリテハ一車扱ヲモ為スコトアルヘシト云フ乗車貨銀ハ全線開通ノ上定メラルヘキモ臨時鄭家屯大林間大洋一元三角鄭家屯錢家店間大洋一元八角ニシテ大林錢家店間ハ大洋五角ナリトス尚鄭家屯白音太來間全線ノ竣工期ハ十一月十七日ナルガ最早土盛作業ハ全部竣成シタルヲ以テ仮令近ク嚴寒ノ襲来スルコトアリトスルモ軌道ノ布設ニ左シタル故障ナキ見込ニテ当局ニテハ予期ノ通十一月中ニハ鄭家屯白音太來間ノ列車運転ヲ開始シ貨客ノ取扱ヲ為ス筈ナリ

鄭白線全線開通報告ノ件

四四五

八 四洮鐵道鄭白支線ニ閥スル件 三三一 三三二 三三三

四四六

公第一七四号 (十一月二十一日接受)

大正十年十一月十六日

在鄭家屯

領事 池部 政次 (印)

開通式舉行ノ件

(十一月十七日接受)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿
四洮鐵道支線タル鄭白線ノ工事進捗状況ニ閑シテハ其進捗
ノ都度隨時及報告置候通リナルガ本月十一日ヲ以テ全線ノ
軌条布設ヲ完了シ本十六日ヨリ愈々全線開通スルヲ得タリ
ト雖モ唯目下四洮局ニ於テハ満鉄ト交渉中ノ各等客貨車未
ダ貸与手続未了ナルヲ以テ從來通り建築列車ニ三等客車ヲ
連結シテ午前六時発一日一回宛往復スルコト相成候尚約
一ヶ月後ニ於テハ右手続中ノ客貨車モ到着シテ運賃発着時
間等制定セラルベキモ目下臨時賃金トシテ

鄭家屯 大林營子間 大洋 一元三角

錢家店間 // 一元八角

// 白音太來間 // 二元三角

ヲ徵シツツ有之候條此段及報告候 敬具
本信写送附先 在支公使 在奉天總領事

第六八六号

鄭家屯ヨリ白音太拉ニ至ル四洮鐵道ノ支線ニ閑シ本年二月
満鉄ヨリ其經營上本支線ノ速成ヲ図リ度キ希望ヲ以テ敷設
工事着手方承認アリタキ旨願出アリタル処昨年五月新借款

團問題ニ閑スル梶原「ラモント」協定當時ノ交換文書中ニ
鄭家屯洮南間本線ヲ掲記シタルニ止リ該支線ニツキ何等明
記スル所ナキ行懸モアリ旁慎重考量ヲ加ヘタルモ右ハ本線
ト不可分ノモノト謂フヘク且ツ公債募集ニ依ラズ差当リ満
鉄ヨリ所要工事費ヲ融通スルコトトナリ居リタルニ付他日
借款團ノ問題トナルコトアリトスルモ充分弁明ノ余地アリ
ト認メ同社ノ願出ニ承認ヲ与ヘ置キタリ同社ハ右承認ニ基
キ本年四月工事ニ着手シタルカ十一月十一日全線竣工シ
十六日仮開通式ヲ行ヒ即日ヨリ汽車ノ運転ヲ見ルニ至レリ
御含迄

在欧各大使ヘ転電アリタシ

三三四 十二月九日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

正金銀行ヨリノ四鈴鐵道短期借款ノ残額償還

ヲ一年延期ニ閑スル件

三三一 十一月十七日 在鄭家屯池部領事ヨリ

内田外務大臣宛 (電報)

鄭白線ノ建設工事十一月十一日完了十六日仮

開通式舉行ノ件

(十一月十七日接受)

鄭家屯ヨリ白音太拉ニ至ル四洮鐵道支線ハ十一月十一日竣
功シ同十六日仮開通式ヲ行ヒ即日ヨリ汽車ノ發着ヲ見ルニ
至リタリ尚正式開通式ハ来春盛大ニ行ハルル筈ナリ

三三一 十一月十九日 (岡部亞細亞局第二課長ヨリ)
鐵道省外國鐵道調查課大村卓一宛

四洮鐵道鄭白支線開通ニ閑シ通報ノ件

亞二普通第九八号

本件ニ閑シ在鄭家屯池部領事ヨリ別紙写ノ通り來電有之候
ニ付茲ニ及送候條御查閱相成度候也

註 別紙ハ前掲在鄭家屯池部領事發内田外務大臣宛電報第二五
号ノ写ナリ

三三三 十一月二十一日 (内田外務大臣ヨリ)
在米國幣原大使宛 (電報)

鄭白線開通ニ閑シ通報ノ件

附屬書一 十二月三日附顏外交總長ヨリ小幡公使宛照会
新字第二二三号写

右借款残額償還一年間延期ニ閑スル件

二 十二月九日附小幡公使ヨリ顏外交總長宛公文

第一八九号写

右了承ノ旨照覆ノ件

(十一月十五日接受)

在支那

特命全權公使 小幡 酉吉 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

本件ニ閑シテハ客年十二月十日附公第四三一号拙信ヲ以テ
償還延期ニ閑シ及報告置候處今般外交總長ヨリ別紙甲号写
ノ通本件短期借款残額金一百六十万円ハ本年十一月十八日
ヲ以テ償還期限ニ達シタル処交通部ニ於テ正金銀行ト商議
ノ結果更ニ一ヶ年延期スルコトナリタル趣當方備案ノ為
照會致越候ニ付當館ニ於テ正金銀行ニ問合セタル処右ハ事
実ニ付別紙乙号写ノ通先方ニ及回答置候間御查閱相成様致
度此段及報告候也

本信写送付先 奉天 鄭家屯

(附属書一)

甲号

十二月三日附額外交總長ヨリ在中国小幡公使宛照会新字第二
三号写

四鄭鐵道短期借款残額償還一年間延期ニ閔スル件

照会新字第二二三号

外交總長顔

為

照會事准交通部咨称四鄭鐵路正金銀行短期借款余額日金一
百六十万元前与該行商妥於上年十一月十八日起展限一年業

經咨明在案上項借款余額復於本年十一月十八日到期茲又与
該行商妥再展限一年咨請備案等因前來相應照會

貴公使查照可也須至照會者

右 照 會

大日本國欽命駐華全權公使小幡

中華民國十年十二月三日

(附属書二)

乙号

十二月九日附在中国小幡公使ヨリ額外交總長宛公文第一八九号
写

四鄭鐵道短期借款殘額償還一年間延期了承ノ旨照覆ノ件

第一八九号

以書翰致啓上候陳者四鄭鐵路正金銀行短期借款余額金壹百

六拾万円ハ本年十一月十八日ニ償還期ヲ延長シタル処今般
更ニ一年間延期ノ事ニ両者ノ妥商ヲ經タル旨交通部ヨリ通

知アリタル趣本年十二月三日附新字第二二三号貴翰ヲ以テ
御來照相成致了承候此段照覆得貴意候 敬具

大正十年十二月九日

日本帝國特命全權公使 小幡酉吉
支那共和国外交總長 顔惠慶殿

三三五 十二月二十八日 在鄭家屯池部領事ヨリ
内田外務大臣宛

鄭白全線ニ客車一月一日ヨリ開通スル旨報告

ノ件

公第一八五号

(大正十一年一月四日接受)

大正十年十二月二十八日

在鄭家屯

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

領事 池部 政次(印)

四洮鐵道鄭白全線客車開通報告ノ件

四洮鐵道支線タル当地白音太來間ノ鐵道ハ本年十一月中旬
軌道布設ヲ竣工シ同時ニ貨車ニ三等客車ヲ連結シテ旅客ノ
便利ヲ計リ居タルコトハ既報ノ通リナルガ今般滿鉄ト交渉
中ナリソ各等客車讓受ノ議モ無事ニ纏マリ愈々明年一月一
日ヨリ混合列車ヲ開通シ四平街白音太來間ノ連絡運輸ヲ開
始スルコトトナレリ尚ホ発着時間並ニ旅客ノ運賃左表ノ如
シ

- | | | |
|-------------|---------|------|
| 一、四平街發 | 午前八時三十分 | 一日一回 |
| 一、通遼(白音太來)着 | 午後四時五十分 | |
| 一、通遼發 | 午前八時五十分 | |
| 一、四平街着 | 午後五時四十分 | 一日一回 |

| 旅客運賃(四平街ヨリ) | | 地名 | 一等 | 二等 | 三等 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 八 | 面 城 | 一、大洋元 | ○、大洋元 | ○、大洋元 | ○、大洋元 |
| 鄭 家 屯 | 四、四〇 | 二、六五 | 一、八〇 | 一、八〇 | 一、八〇 |
| 大 林 | 七、七〇 | 四、六〇 | 三、一〇 | 三、一〇 | 三、一〇 |
| 錢 家 店 | 八、九五 | 五、三五 | 三、六〇 | 三、六〇 | 三、六〇 |
| 通 遼 | 一〇、一〇 | 六、〇五 | 四、〇五 | 四、〇五 | 四、〇五 |
| | 以上 | | | | |

右及報告候 敬具